

平成28年度特別会計決算に関する質疑

国民健康保険

Q 特定健康診査の受診率を上げるための努力をする中、本年度の振り返りと今後の取り組みは。

A 特定健診の受診率は、39.6%であり県内平均と同等です。今後は、県内目標の60%を目指していきます。また、保健指導の重要性を重視した取り組み、町独自の二次健診¹も継続していきたくです。これにより、生活習慣病の予防につなげ、医療費の抑制にもつなげていきます。

Q 保険給付費支払基金の年度末現在高は1億5400万円。平成30年度から運営主体が県に移行する中で、今財産(基金)の保全や活用における取り組み等は。

A 現状は保険給付に係る基金となっているので、このままでは広域化に伴って使えなくなってしまう。今後は条例改正を経て、一般会計における財政

調整基金のような形とし、被保険者への還元を念頭に進めていきます。

介護保険

Q 法の改正を受けて、平成29年度からの完全移行が示されていた新たな地域支援事業。当町においては半年前倒しでスタートしたところだが、スムーズな移行はかなったか。

A 対象事業のすべてを途中で切り替えることは難しいもので、各更新時にあわせて段階的に切り替えてきた状況です。また、通所型・訪問型ともにサービスを提供する担い手の確保に苦労を要しているところですが、社会福祉協議会に委託している生活支援コーディネーター²を中心に、サービスを検討・担い手の発掘等に取り組んでいます。

A 主に、はつらつクラブの実施・介護予防サポーター養成講

オリンピック・パラリンピック教育

Q 東中が「次代に語り継がれるレガシー創出事業」の研究校に指定されたが、取り組みは。

A オリンピック・パラリンピックに出場した地元ゆかりのある選手³を招聘し、11月を

町の地籍調査事業は、平成5年から40年計画で進めています。平成28年度は主に古寺地内の山林を調査しました。草木をかき分けて境界を探し、杭を打ち込む地道な作業。「地籍調査推進委員」として尽力いただく各地域の皆さんにも感謝です。



「楽に立ち上がれる！ 速く歩ける！ 転ばなくなった！」と効果検証された百歳体操。地域でのつながりや見守り、支え合いへの展開に期待!!

平成29年度補正予算に関する質疑

地籍調査事業の行方

Q 土地の境界の明確化や公共

事業の円滑化等、メリットの多い地籍調査事業だが、600万円超の県補助金が減額される。

細川紙製の記念証を贈呈

Q 婚姻届や出生届を受けた際に、記念証の発行を考えているとのことだが。

A 細川紙を使ったA4サイズ程度のもを想定し、10月中には形にしたいと考えています。また、先進地を参考に、取り扱

条例その他の質疑

町長給与の減額へ

提案理由・概要：社会福祉協議会の福祉サービス利用援助事業(愛称：あんしんサポートねつと)における不祥事を重く受けとめ、時限的に減額(2カ月で17万円)するもの。

Q 一連の不祥事について、解決がされたのか。

A 5月末に刑事事件としての判決(懲役2年執行猶予4年)がされ、最終しています。ただ、起訴内容は被害の全額(516

万円)に関するものでなく、そのうちの57万円分となっている。残る459万円については、社会福祉協議会において民事裁判で求償していくとのこと。

Q 給与減額の算出根拠は。

A 被害額を基準に、元職員から一部返済された額・保険金として得た額を差し引き、実質的な損害額から算出したものです。元職員に対する管理監督責任を有した役員・職員で按分し、弁済することとしました。

解説 JOCオリンピック教室⁴

オリンピック・ムーブメントの普及や啓発を目的として取り組む事業。オリンピック出場選手が先生となり、中学2年生を対象に授業形式で行なうもの。

解説 地元ゆかりのある選手³

平成24年のロンドンパラリンピック「ウィルチェアラグビー」に出場し、4位入賞を果たした川下直教氏。(小川町在住)

解説 生活支援コーディネーター²

地域包括ケアシステムの構築・推進の担い手。新たな高齢者向けサービスの発掘や開発等に取り組む。

解説 二次健診¹

健診後に医師の判断で必要と認められる人に行なう。生活習慣病の予防につなげる目的がある。内容は、微量アルブミン尿、糖化負荷試験、頸動脈エコー検査。